

(様式第3号)

平成28年3月30日

石巻市議会議長 安倍 太郎 殿

会派名 石巻復興の会
代表者名 千田 直人 ㊞

調査報告書

調査した概要は次のとおりであります。

記

- 1 調査者氏名 千田 直人、西條 正昭、後藤 兼位
- 2 調査期間 平成28年 1月18日から
平成28年 1月20日まで 3日間
- 3 調査地 (1)三重県四日市市
及び調査内容 ・議会改革について
(2) 三重県伊勢市
・スポーツ誘客推進事業について

4 調査目的

(1)三重県四日市市

●議会改革について

四日市市は三重県の北部に位置し、西は鈴鹿山系、東は伊勢湾に面した温暖な地域である。江戸時代には東海道の宿場町として、明治初期には四日市港が修築され、国内貿易、海外への門戸が開かれ工業都市として発展した。昭和30年代以降、石油化学工場等が進出し、大気汚染等の公害をもたらしたが、環境浄化に努力し、今では自然と調和した30万都市となっている。

四日市市議会は、日本経済新聞社産業地域研究所が平成26年に実施した『議会改革度調査』において、全国813市区議会中第1位という評価を受けた。

特徴の一つとして、平成23年から「通年議会」を導入している点がある。これにより、今まで専決処分を行っていた議決事件は、原則として緊急議会を開催し、

審議することとなった。他にも、毎年50名程度の市民を議会モニターに委嘱して、市議会に関する意見を寄せてもらう「市議会モニター制度」を実施している。

本市議会の参考とするべく視察する。

(2) 三重県伊勢市

●スポーツ誘客推進事業について

伊勢市は、三重県の中東部、伊勢平野の南端部に位置する、比較的温暖な気候に包まれた都市である。北は伊勢湾に面し、中央には宮川や五十鈴川、勢田川が流れ、また、東から南にかけては朝熊ヶ岳、神路山、前山、鷲嶺が連なり、西には大仏山丘陵が広がる緑豊かな都市でもある。伊勢志摩国立公園の玄関口として、豊かな自然と美味しい食材に恵まれた伊勢市には、歴史と文化に富んだ名所・旧跡も多く、魅力ある地域資源があふれている。また、古くから「お伊勢さん」「日本人の心のふるさと」と呼び親しまれてきた伊勢神宮を擁し、神宮御鎮座のまちとして栄えてきた。

伊勢市においては、人工芝ピッチ計4面、天然芝ピッチ1面を有する「伊勢フットボールヴィレッジ」や、平成26年に全面人工芝グラウンドへリニューアルした「倉田山公園野球場」などの市内スポーツ施設を活用し、スポーツ大会や合宿・イベント等を開催することで市内への宿泊、観光客を誘致している。また、宿泊にあたり「集大会・スポーツ合宿誘致補助金」の交付を行っている。

本市施策の参考とするべく視察する。

5 調査概要

(1) 三重県四日市市

四日市市議会においては、「市政活性化推進等議員懇談会」を平成12年度に設置して、市政を取り巻く様々な課題について、執行部を交えず、議員だけで自主的に意見交換、情報交換を行った。それを平成17年度には「議員政策研究会」に改編、政策課題を設け各分科会を設置、政策立案機能のさらなる向上を図っている。

「四日市市議会モニター」制度の概要。制度発足までの経緯は、平成16年度の議長の発案を受け、各代表者会議で議論を重ねて、発足に至る。

市議会モニターの仕事は、本会議、常任委員会等を可能な範囲で傍聴し、意見を文書で提出する。ケーブルテレビ、インターネットで中継している本会議の様子などを可能な範囲で視聴して、意見を文書で提出する。研修会、意見交換会等に出席し、意見を述べる。随時、議会運営等に関する意見や提言を文書で提出する。議長が依頼した市議会の運営に関する調査事項等に回答する。

報酬は支給していないが、年度末に記念品、図書カードを贈呈している。

選考方法は、地区市民センターの館長に、各1から2名の推薦を依頼。四日市大学に、市議会モニターとして大学生の推薦を依頼（5名程度）。一般公募（10名程度）。

任期は、1年、再任することを妨げないが、再任は1年限り。

市議会モニターの構成は、平成27年度、48人（推薦42人、公募6人。うち男性31人、女性17人）。

「議会報告会とシティ・ミーティング」の開催。議会基本条例の制定に伴い、平成23年9月定例月議会から議会報告会を開催。毎回、4常任委員会ごとに会場を分け、第1部を議会報告会として各定例月議会の報告を行い、第2部をシティ・ミーティング（意見交換会）として決められたテーマについて市民との意見交換を実施している。

「通年議会」平成23年5月開会議会から会期を通年（定例会を年1回とし、会期を通年に、議員の任期に合わせ、5月から翌年4月までの1年を通じて議会を開会）とすることで、議長により速やかに本会議を開くことができ、災害などの突発的な事件や緊急の行政課題に対応ができるようになった。また、常任委員会・特別委員会の活動を活性化し、より慎重な議案審査や、より専門的な調査を行うことが可能となった。

「文書質問」平成23年5月開会議会から議会開会中を除き、文書により執行部に対して質問を行うことができる。質問内容は、一般質問として行う内容に相当する程度とし、質問書に具体的に記載する。質問書は、議長を経由して執行部に送付

し、執行部は速やかに回答する。質問書・答弁書は、全議員に配布。また、市議会ホームページ等で公開している。

(2) 三重県伊勢市

伊勢市は、伊勢神宮の門前町として発達した都市で「神都」の名を持つ。江戸時代には「お伊勢まいり」の街として多数の観光客が訪れ、現在も伊勢志摩半島の中心都市となっている。伊勢神宮では 20 年に一度社殿を建て替え神座を移す「神宮式年遷宮」が遂行され、街に活気をもたらすことから「伊勢の町は遷宮のたびに新しくなる。20 年ごとに活性化する」と言われている。直近の式年遷宮は 2013 年開催 1, 420 万人の来客数であった。

スポーツ誘客推進事業は、平成 6 年開催の「世界祝祭博覧会(まつり博三重 94)」の駐車場跡地を整備し、平成 8 年に朝熊山麓公園芝生球技広場として供用開始。平成 16 年には、周辺に天然芝球技場を整備し供用開始した。

平成 18 年度に市長マニフェスト「スポーツ交流誘客基盤整備」の中に「伊勢フットボールヴィレッジ構想」として、サッカー場を整備し大会や合宿を通じて、市外集客を図り既存の観光資源と結び経済の活性化を目的に整備された。

その後、構想を一部変更し、新たに名称を「伊勢フットボールヴィレッジ」とし、天然芝 1 面、人工芝 4 面及びクラブハウス 1 棟、県内トップクラスの施設誕生となった。また、伊勢市補助金等交付規則により各種大会またはスポーツ合宿(宿泊)に誘致補助金を交付している。

施設概要は、

人工芝 A B ピッチ、68m×105m×2 面、駐車場 500 台、観客席 900 席(Aピッチ)

人工芝 C D ピッチ、68m×105m×2 面、駐車場 150 台

天然芝 E ピッチ、68m×105m×1 面、クラブハウス、駐車場 30 台

整備事業費

年	ピッチ	伊 勢 市	株式会社赤福	合 計
平成 8 年	天 然 芝	40, 000		40, 000
平成 19 年	人 工 芝		400, 000	400, 000
平成 24 年	人 工 芝	140, 000	900, 000	1, 040, 000
合 計		180, 000	1, 300, 000	1, 480, 000

利用者数

年	A～D(人工芝)ピッチ	E(天然芝)ピッチ	合 計
平成 22 年度	58, 236	5, 210	63, 446
平成 23 年度	66, 154	7, 217	73, 371
平成 24 年度	68, 894	7, 040	75, 934
平成 25 年度	96, 448	※678	97, 126

平成26年度	123, 894	6, 749	130, 641
--------	----------	--------	----------

※天然芝養生のため平成25年6月～翌年3月まで利用不可

整備事業費総額1,480,000千円は、株式会社赤福から寄付金が1,300,000千円であり、市の負担金は180,000千円となっている。

産業観光部の中に観光振興課(スポーツイベント係、観光イベント係、観光企画係)「魅力ある観光地づくり」と観光誘客課(観光誘客係8名)「情報発信と誘客」と業務分けし、振興課のイベントは市内誘客、誘客課のイベントは市外誘客に向けた企画で実施している。

各種事業実施に3つの目標を設定する

1. 入込客数の減少を抑制すること
2. 来訪者数を経済効果につなげること
3. 来訪者に満足を感じていただき、リピーターにつなげること

6 所感及び石巻市への政策提言等について

(1) 三重県四日市市

四日市市議会では、平成23年3月に議会基本条例を可決、その特徴は『市民との情報共有』議会活動について積極的に情報を公開し、市民等との情報共有に努める。『市民参加の推進』議会における討議に市民意見を反映させる仕組みを構築する。『議員間討議の活性化』議員間での討議を活性化し、集約された意見から政策立案・政策提言を行う。基本方針三本柱が特徴だ。

四日市市議会は議会改革度トップにふさわしい内容だった。議会基本条例が制定され、地方議会の自主的な改革が問われる今日、基本的なことを積み重ね、地政学的な特徴を生かした議会活動を創造することが重要であると思料する。

石巻市は、東日本大震災から5年が経過しようとしている。大被災地としての震災復興が大きな命題である。当議会としても、議会基本条例を制定した議会改革に取り組んできたが、四日市市議会の「議員政策研究会」の事例を参考に、被災地の議会として取り組むべき課題を市民と共有して研究することが必須だと考える。取り組むべき議会改革は数多くあり、それを実行するのは、われわれ議員自らの意志にある。

(2) 三重県伊勢市

古くから「お伊勢まいり」で全国から参拝者が訪れる。神宮式年遷宮が執り行われた平成25年には1,420万人が訪れ、平成27年には830万人が神宮参拝に訪れている。市内には、おはらい町、おかげ横丁、夫婦岩など市内全域が神域であり、神宮御鎮座のまちとして今日を築いている。

観光関連事業は多く、その中で三重県と共催の「まつり博覧会」の跡地利用として取り組んだスポーツ施設整備事業、式年遷宮以降観光客が減少する中、大学のサークル合宿など利用も多く、スポーツ観光での来訪者が増えている。

メインスポーツ開催での経済波及効果を平成 26 年度は 6 億 8 千万円と試算しているが、補助金制度活用効果であることは否めない。「補助金が無くなったら本市開催は出来ない」とのアンケートも得ている、補助金制度の切れる次年度以降の取り組みが課題と思われた。

建設事業費についても、主な工事は(株)赤福からの寄贈約 13 億円で、伊勢市負担分は約 1 億 8 千万円とのこと、通常の事業整備では考えられない予算収入である。市内への来訪・滞在者数を増加させスポーツ観光による経済波及を促す。と話されたが、毎年 800 万人を超える伊勢神宮参拝者は想定及ばない数値であり、当日も切れ目ない人波で賑わっていた。

「スポーツ観光」とまで結ばなくとも、スポーツ愛好者の増進は、野球・サッカー・ソフトテニス・フットサル・バスケットボールなどは身近なところに施設整備し、誰でも気軽に利用できる環境整備が必要と思われる。

また、パークゴルフ場整備やウォーキング・ジョギング・ランニングなど軽スポーツ的なロード整備も重要な施策、健康増進のための体にやさしい有酸素運動として最近特に注目されている。

7 調査経費 383,046円

8 添付書類 別添資料のとおり